

「蓬原小学校の蓬原中野棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立蓬原小学校

2 学年・人数

4年生から6年生（計46人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年7月11日（火）、9月14日（木）、20日（水）、21日（木）
5校時14:15～15:00（蓬原小学校体育館・校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月24日（日）運動会4・5・6年表現（蓬原小学校校庭）

※ 祝創立150周年記念として、新型コロナウイルスにより4年ぶりの校区合同運動会となり盛大に盛り上がった。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

蓬原中野棒踊り（ふつはらなかのぼうおどり）

(2) 由来

元々は、垂水市で島津義弘公の戦いの勝利を祝って始まった。2列縦隊の棒踊りは、150年前頃から伝わっているが、3列縦隊の棒踊りは、50年前ぐらいから踊られている。現在は、蓬原中野自治会の棒踊り保存会により、次世代へ継承されている。

(3) 構成等

本来は、短尺棒と長尺棒の2部構成であった。

運動会では、短尺棒の踊りを、保存会の生の歌で踊る。また、子どもたちが踊った後に、蓬原中野自治会の保存会が踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

10年ほど前から、小学校・校区公民館合同運動会で、小学4～6年生による棒踊りが披露されるようになった。毎年運動会前に、蓬原中野自治会の棒踊り保存会が、子どもたちに指導している。

今年度も4回、蓬原中野棒踊り保存会による指導を受けた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

練習の時間が少ないので、DVDで踊りを見せ、子どもたちが覚えられるようにした。また、体育館での練習では、床を傷つけないよう、棒の先端に布を巻き付けさせた。子どもたちの棒に対する恐怖心をなくす効果もあった。

ただ、新型コロナウイルスの影響で思うような練習ができないこともここ数年続いてきたが、3学年で行うため、練習では、上級生が下級生に教えることができるようになってきている。また、発表の際は、棒踊りの衣装に着替えて演技を行った。運動会当日の着替えは、保存会や保護者の方々の協力をいただ

いている。

7 取組の様子



(上級生から下級生へ)



(保存会の方々の指導)



(友達と自主練習)



(運動会当日の発表の様子)

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

中野集落で、代々伝わっていることを聞いて伝統的な歴史なんだと思った。練習の時は棒が指にあたり打ち方が難しかったが、リズムが合うと棒をカチカチとたたくことができた。本番でも、上手にできたのでよかった。全体で棒をたたく音があうと気持ちが良かった。きれいな色の衣装に、帯を肩に巻くところが難しかった。

【教職員】

隊形移動をするのは難しいので、今年度は、1学期の後半から練習を開始したことで、夏休みも個人練習ができるようにした。また、保存会の方々に指導していただき助かりました。4年ぶりの校区合同運動会での発表となり児童や地域の方々も喜んでもらえて良かった。

【保存会から】

4年ぶりの校区合同での運動会で披露することができてよかった。練習では、去年の踊りを覚えている子も多くいた。年々、踊りの覚え方も子ども同士での教え合いができるようになり、よくなっている。声もよく出していた。相手に合わせながら棒を打つのは大人でも難しいが、子どもたちはよく覚えて、三人組も上手にできるようになった。今後もお手伝いをしていきたい。また、11月の校区文化祭「ふつはらまつり」でも棒踊りを披露することができた。